

建設マネジメント力の評価シート [発注者]

| 5つの能力要素 | 建設マネジメント力の能力要素の細目と具体的な発現事例 |
|--|---|
| <p>1 目的意識力</p> <p>現場に向き合い、より良い方法でよりよいものを造ろうとする意欲、日頃の取り組み姿勢</p> | <p>①幅広い視野(たこつぼ型にならない) 自分の立場(発注者、設計者、施工者)や担当業務の範囲か否かにかかわらず、事業全体の目的や意義、そして課題は何かを常に意識してきた。</p> <p>②高品質への意欲(よりよいものづくりへの使命感) 事業、業務、工事等(以下、「プロジェクト」という。)の効果的な推進のため、自らの責任範囲にかかわらず、実施手法等について積極的な提案を行ってきた。</p> <p>③新取の姿勢(新技術導入等への積極性) 新工法、調査、計画等の新技術、新しい事業手法の導入等について、プロジェクトの効果的な実施のため実績が乏しいものであっても積極的に採用してきた。</p> <p>④現場主義(現場を重視する姿勢) 自らが取り組むプロジェクトの現場はもとより、他の参考になる現場に積極的に足を運び、自らの目で実際に起こっていることを確かめるようにしてきた。</p> <p>⑤自己研さん(知識・技術の習得意欲) プロジェクトを適切に実施するため、学会誌、専門誌等から参考となる論文や報告を読んだり、事例報告会に参加したり、先輩等からアドバイスを聞いたりしてきた。</p> <p>⑥技術継承(技術の伝搬、継承への意欲) 経験を生かして組織内外での各種の指針作り(見直し)や、論文、レポート等の発表、後輩たちへの伝承などに積極的に取り組んできた。</p> |
| <p>2 主体的に判断する力(エンジニアリングジャッジメント)</p> <p>状況分析、対応策の選択等にあたって、物事の多面性を考慮し総合的な観点から主体性をもって判断をすることができる。(マニュアル等に拘束されず、活用し、その目的を実現する。)</p> | <p>①総合的判断力(多面的、総合的なリスク分析力) あるプロジェクトの実施途上、施工者の提案を設計に反映させることが重要と考え、事業の途中からで多少の手戻もあったが、デザインビルド方式の採用に切り替えた。</p> <p>②技術的判断力(技術評価、VE) 技術提案の課題設定、評価について、当該案件の構造物特性、施工条件特性等を的確に把握し、その特性に応じたものとなるよう取り組んだ。また、オーバースペックを極力排除した。</p> <p>③主体的判断力(マニュアルなどに拘束されない) トンネル工事での地山の地質条件の変化に対し、現場に出向き施工者の意見、提案に耳を傾け速やかに工法変更等の判断を行った。</p> |
| <p>3 タイムリーに決断する力</p> <p>時間制約やリスクの下で、タイミングを失することなく、責任を持って方針決定を行うことができる。(ジレンマの中での選択)</p> | <p>①洞察力ある決断力(状況に即した実施方法の選択、導入) 施工条件に不確定要素が多く通常の契約方式では困難と判断し、前例が少なく組織には抵抗もあったが、契約方法の工夫や改善を行って対応した。</p> <p>②臨機応変な決断力(状況の変化に対し柔軟に対応) 工事の実施過程で安全性や品質の確保に当初の想定以上の手間がかかることが判明し、事業全体の完成時期にも影響するので悩んだが、工期延期に踏み切った。</p> <p>③危機管理決断力(不測の事態に対し現実に即した臨機への対応) 勤務時間外に災害(事故)が発生した時、職員の参集が間に合わない中で臨機にマニュアルとは異なる体制、要員割り当てを指示し、事態に即応した。</p> |
| <p>4 組織を牽引し実践する力(リーダーシップ)</p> <p>構成員を目標に向かって動機づけ、実行に移す能力。</p> | <p>①目標設定力(組織の取り組み目標や課題を設定) 標準的な設計・施工の技術指針の準拠では工事の品質確保が困難と感じたため、事務所独自に工事の品質向上の目標を立て、設計・施工の技術指針の策定することとした。</p> <p>②説明力(業務実施の意義、効果等を説得力をもって説く) ボーリング調査の不足に不安を覚えたため、用地、設計、工事の関係者を集め、プロジェクト全体の意義、生じうるリスクやトラブルの大きさ、クリティカルパス等について共通認識を持たせた。</p> <p>③率先力(自ら進んで進行管理の徹底、適切な軌道修正) 事務手続きの遅れから工事の遅延が予測されるなか、現状維持の雰囲気にはひるまず、事務所の体制シフトを敢行した。</p> |
| <p>5 対外的なコミュニケーション力(発信、共感力)</p> <p>利害関係者、建設生産システムの他のプレイヤー、内部組織の中での情報発信し、また他者の情報に共感できる能力</p> | <p>①対社会(ステークホルダー、社会と積極的な対話、情報発信) 地元意見が割れ緊迫した事業説明会において、双方の言い分を冷静に受け止め、合意形成の調整を自らかつて出て、歩み寄りが得られた。</p> <p>②プレイヤー間(設計者、施工者等のチーム間での対話充実) 施工時の仮設方法が当初設計から大幅に変わっている点に疑問を感じたため、設計者と施工者を呼んで双方の考え方を確認し調整した。</p> <p>③対内部組織(コミュニケーションのための場づくり、ツールの導入等) 調査設計部署と工務部署との意識の齟齬に懸念を感じ、インターネットに事業の進捗状況を示す動画を掲載し、工事現場の職員や施工企業の担当者の肉声も届ける工夫を行った。</p> |